常照
第７８８号

# 龍樹の伝説 ①

《はじめに》

真宗の七高僧として真っ先に名前があげられる（第一祖）龍樹菩薩は、またさまざまな伝説に飾られた人でもあります。今回はそれを紹介したいと思います。

《名前の由来》

龍樹（りゅうじゅ）と漢訳される本名はナーガールジュナでナーガ＋アルジュナよりなり、ナーガは龍の意味、アルジュナは樹と音写されています。なお龍樹の母がアルジュナ樹のもとで彼を産んだからという伝聞もありますが、アルジュナという樹木の存在が確認されておらず、インドの叙事詩などに登場する英雄アルジュナからもらったのではないかというのが通説です。

《神童誕生》

龍樹が生まれたのは西暦百五十年ごろと言われています。『龍樹菩薩伝（鳩摩羅什訳）』によりますと、南インドのバラモンの家に生まれ、天性聡明で、一度聞いたらすぐ理解し、繰り返し説明する必要がなかった。よちよち歩きのころから、周りのバラモンの唱えるヴェーダ聖典を聴いて、すぐおぼえ、唱えるばかり

かその意義すら理解した。弱冠にして名を馳せ、諸国をひとり歩み、天文、地理、未来の予言などすべて体得した。そんな中、同じく聡明な三人の青年と親友としての契りを結ぶことになります。

《隠身の術》

ある日のこと、この四人が集まって話していました。「天下のことがらで悟るべきものは、みな究め尽くした。今後は何によって自ら楽しもうか?」「情を交わし、欲を極めることは、人生最高の楽しみである。何によって快楽を得ようか」「隠身の術というのがある。これによって快楽を達成できるであろう」四人は互いに相手を見つめたが、誰も反対するものはなかった。そこで隠身術の大家のもとに行って、隠身の法を教えてくださいと頼んだ。隠身術の教師は内心で思った。「この四人は秀才で世の人々を見下している。もし隠身術を授け、それを体得したならば、私を軽んずるであろう。まず彼らに薬を与えて用いさせ、術を知らせないならば、薬が尽きた時、必ず私のところに来て、永く私を師とするであろう」と。そこで四人に青薬を一丸ずつ与えて、「この薬をくだいて水に溶かし、瞼に塗ったなら、君らの身体は隠れて（透明人間になって）誰も見ることはできないだろう」と告げた。ナーガールジュナはこの薬を砕いていた時に、その香りを嗅いで、ただちにその成分や分量についてすっかり把握した。薬を教えてくれた師匠のも

とに帰って告げて言った。「さきにあなたからいただいた薬は七十種のものが入っています」と、その分量の多少をあてていくと、すべて師の処方通りであった。薬を与えた師は聞いた。「君はどうしてそのことを知ったのか」ナーガールジュナは答えて言った。薬にはそれぞれ香気があります。どうして知られないことがありましょうか」師は感服して言った「このような（すぐれた）人に出会うことはもうないであろう。私の隠身術など惜しむに足らない」と仙術をすべて授けました。

《いざ後宮へ》

仙術を体得した四人は、見えないのをいいことに自由に王宮に出入りし、宮中の美女をみな犯してしまいました。やがて後宮の女官で懐妊するものが出て、とうとう王さまに知られるところとなりました。王さまは怒って、「こんなことがおこるとは・・」と智慧のある臣下を集めて、相談しました。その時ある古老の臣が「これは誰かが仙術を用いているのでしょう。細かな砂土を宮中にくまなく敷きつめ、役人に見張らせれば、必ずや足跡を見つけることができましょう」と進言し、そのようにしているうちに、はたして足跡が浮かび出て、王さまに報告するや、王さまはすぐに出入口をすべて閉めさせ、掘強の部下数十人に命じて空中に刀を振り回せさせました。そこでナーガールジュナ以外の三人はすぐさま

斬られて死んでしまいましたが、ナーガールジュナのみは、身を縮め、呼気をおさえて、王さまの背中に隠れていた。王さまのそば七尺以内では刀を振り回してはいけないという決まりがあり、ナーガールジュナは九死に一生を得た。この時彼は始めて悟った。「欲望は苦しみのもとであり、もろもろの禍の根である。徳を傷つけ、身を危うくすることはみなここから起こるのである」と。そして自ら誓った。「もしここから逃れることができたら、出家して、正しい法を身につけよう」とここに大乗仏教の祖といわれる龍樹菩薩が誕生しました。

（常照次号へつづく）

## 九月の常例布教（ご法話）のご案内

○前期　九月七日（土）～十一日（水）
備後教区　沼隈西組　大東坊
講師　那須智雄師

○後期　九月十三日（金）～十六日（月）
北海道教区　十勝組　妙法寺
講師　石田智秀師

○秋季彼岸会布教
九月二十一日（土）～二十三日（月）
北海道教区　上川南組　永樂寺
講師　永江智明師

○場所　小樽別院内
○時間　午後二時（法要終了後）～午後三時半
○浄土真宗のみ教えについて布教使のご法話を頂きます。
どうぞお誘い合わせいただき、ご聴聞に来院くださいますようお待ちしております。
◎九月二十三日（月）は秋季彼岸会の御中日にあたりますので月忌参詣はお休みさせて頂きます。

発行所
〒047-0017
小樽市若松二丁目四番十七号
本願寺小樽別院
電話（〇一三四）二二―〇七四四番
FAX　二九―四〇八〇番
テレホン法話　二七―一六一六番